

長女・美香子（ミカコ） 38歳

長男・英一（エイイチ） 34歳

次女・愛子（アイコ） 31歳

2012年 元旦の昼

長女・美香子だけが住む、三人きょうだいの実家の居間

溶暗

海老一染之助・染太郎の「おめでとうございませーす！」の声のあと、  
「チーン」と響く、鈴（リン）の音。

明かりつくと、

次女・愛子、体育座りでテレビを見ている。  
テレビからは、お笑い芸人の「あけましておめでとうございませーす！」の声。

さんさんと陽が入る部屋。  
料理ののったテーブル。  
きれいな割りばし、きれいなおしぼり、など、お正月仕様の食卓。  
お雑煮はない。

仏壇には、写真立てがひとつと、鈴が置いてある。

長女・美香子、お重と小さな皿を運んでくる。テーブルへ置く。

美香子、去る。

愛子、お重へ眼をやる。

すぐに、仏壇へ眼をやる。

愛子、鈴を持って去る。

すぐに、何も持たずに出てくる。

また、体育座りでテレビを見る。

テレビから笑い声。

愛子

ははははは。

と、笑っているのかいないのか、という笑い声。  
笑っているような、いないような、微妙な表情。

美香子、皿をもって出てくる。

愛子

ははははは。

と、また、笑っているのかいないのか、という笑い声。

美香子

愛子、おもしろいの？

愛子

おもしろいよ。(テレビを見ながら)

美香子

おもしろくなさそう。

愛子

あ、ほんと？おもしろいよ。(テレビを見ながら)

美香子

へえ。

愛子

あ、うるさい？テレビうるさい？

美香子

うるさくはないけど。

愛子

……なんか手伝う？

美香子

大丈夫。

愛子

うん。

美香子

…愛ちゃん、やっぱテレビ、

愛子

(遮るように)この人、寝てないよね、昨日から。昨日も出たよ。(テレビ

をさして)

美香子 稼ぎ時なんだよ。大みそかから三が日。

愛子 クマひどい。(テレビを見て)

美香子 たいへんだね。(テレビを見て)

愛子 ねえ。(相槌)

美香子 ねえねえ。

愛子 ん？

美香子 お箸。

愛子 うん。

美香子 高いやつにしちやった。

愛子 ほんとだあ。ゴージャス。

美香子 でしょう。

愛子 ちゃんと割れるやつだね。

美香子 竹。

愛子 これはいいよ。

美香子 そうでしょう。

愛子 おしぼりも新しい？

美香子 そう！よく気づいたね。

愛子 だって、生地がボソボソしてないもん。

美香子 お正月だからね。

愛子 いいねえ、お正月。

美香子 そうねえ。

愛子 テレビいっぱい見れる。

愛子、会話の途中からテレビを見ながら喋る。

が、笑っているのか、笑っていないのか、微妙な表情。

美香子 愛子、テレビ、おもしろいの。

愛子 おもしろいよ。

美香子 へえ。

愛子 え、なに。

美香子 どっちつかずな顔してたから。

愛子 あ、ほんとに？うわあ、どうしよう。

美香子 なにー？

愛子 一人暮らし長いから。

美香子 だから？

愛子 一人が長すぎておもしろさを表現できなくなってるの、わたしの顔。一人が

美香子 長い人はそうなっていく。

愛子 わたしのほうが一人、長いじゃない。

美香子 わたしでさえこうなんだからお姉ちゃんなんか重症だよ。重症。

美香子

そんなことはないよ。

愛子

一人だとね、おもしろさを伝える必要がないわけ。他に誰もいないから。

美香子

まあ、そうだけど。

愛子

おいしいーとかもそうだよ。伝える必要がないわけ。他に誰もいないから。

美香子

そうやって、退化してゆくわけですよ、表情が。

美香子

怖い。

愛子

無表情でおもしろーいとか、おいしいーとか言いながら暮らしているわけですよ。

美香子

怖い。

愛子

表情というのは社会性なんですよ。お姉さん。

美香子

愛ちゃん、賢いねえ。

愛子

そうでしょう。

美香子

あー。一人暮らし、怖い。

愛子

表現力って使わないと落ちてゆくんですよ、お姉さん。

美香子

なんでもそうでしょう。

愛子

そうお？

美香子

使わないほうがいいものなんて、ある？

愛子

お金。

美香子

ああ。

愛子

気力。

美香子

使いたくないだけだと思う。

愛子

そうとも言うね。

美香子

使ったほうがいいんだって、なんでも。お金なんて使うようにできてるんだから。

愛子

お金使いたくないあい。でも使うの好きい。

美香子

それが正しいんだよ、愛ちゃん。

愛子

イヤー。

美香子

お金も気力も、使うようにできてるの。

愛子

あー。(少し考えて)

美香子

なに。

美香子

気、とか？

愛子

き。

美香子

気。気を、遣う。

愛子

ああ、気、ね。

美香子

そ。気を遣う。

愛子

……。

美香子

……気は、使わないほうがいいの？

愛子

……

美香子

……

愛子

むずかし。

愛子はまたテレビへ向かう。

美香子

愛ちゃん、なんか飲む？

愛子

いい。いらない。

美香子

あ、そう。

愛子、テレビを見ている。

美香子

愛ちゃん、おかし食べる？

愛子

おせち食べるもん、このあと。

美香子

あ、そうだね。

愛子

(テレビを見て微妙な笑い) ふふふ…

美香子

愛ちゃん、テレビおもしろい？

愛子

お姉ちゃん。

美香子

うん。

愛子

昨日から思ってたんだけどさ。

美香子

え、なに。やだ。なんの話。

愛子

普段、人と話してないでしょう。

美香子

…なんで。

愛子

なんでって。

美香子

わかる？

愛子

わかるよ。

美香子

バレるもんだね。

愛子

さみしいねえ。

美香子

さみしくはない。

愛子

またまた、そんなこと言っちゃって。強がっちゃって。

美香子

強がってません。

愛子

たまには人と話したほうがいいよ。

美香子

話してるよ。

愛子

誰と。

美香子

会社のひととか。

愛子

あとは。

美香子

スーパーの人とか。

愛子

あとは。

美香子

あとお？

愛子

え、終わり？

美香子

いや、終わりってこともないけど。ははは。(無表情で笑う)

愛子

表情ないよ！(指をさして)

美香子

え？え？ない？表情ない？(手で顔を覆う)

愛子

一人暮らしこわーい。

美香子　え？重症？  
愛子　お姉ちゃん、たまには友達と遊んだりしなつて。遊ばないとだめになるよ。  
美香子　遊びねえ。  
愛子　お金、使つてないでしょ。使わなきゃダメよ、とか言つておきながら。  
美香子　お金ねえ。  
愛子　けちはだめよ、けちは。  
美香子　けちねえ。

愛子、テレビを見る。

愛子　ははは。(微妙な笑い)  
美香子　……。

(チラと美香子を見て) お姉ちゃん。

美香子　うん？

愛子　お雑煮。

美香子　ないよ。

愛子　まだだめなの？

美香子　……良くはないよ。

愛子　お正月なのに。

美香子　しよがないじゃない、お正月なんだから。

愛子　わたし、お姉ちゃんとお正月するために帰つてきたの。

美香子　……

テレビから、「あけましておめでどうございませす」の声。

愛子　あけましておめでどうございませす。(テレビに返すように)  
美香子　……。

玄関で物音。

長男・英一、入ってくる。

英一　おお。

美香子　おかえり。

愛子　おにい。

英一　やだー。おにいはやめて。英ちゃんって呼んで。

愛子　……そうだった。

英一　た・だ・い・ま。

愛子　英ちゃん、おかえり。

英一　あ、あけましておめでどうございませす。

愛子　おめでどうございませす。

美香子

元気そうね。

英一

元気よ、元気。美香ちゃん、相変わらず地味で素敵ね。はい、これ。（手土産を渡す）

美香子

どうも…。

英一

どしたの。具合悪いの？

美香子

あんたのそれにまだ慣れないの。

英一

外じゃ使わないわよ？

美香子

ああ、そう。

英一、コートを脱ぐ。

英一

はー寒かった。久し振り、愛ちゃん。

愛子

ねー。

英一

二年ぶり？あれ？もつと？

愛子

去年帰ってこなかっただけだよ。

英一

あ、そっか。そんなもんか。

美香子

もつと会ってない感じするでしょ。

英一

するする。（愛子に）いろいろと大変だったみたいで〜おつかれさまでしたあ。

愛子

こちらこそ、大変ご迷惑をおかけしましたあ。

英一

ぜーんぜん！愛ちゃんが思う道をいきなさいよ。

愛子

あら、お兄さんたらありがたいお言葉。

美香子

えらそうに。

英一

妹の幸せ祈りすぎて祈り疲れ。

愛子

すいませんねえ。そんなに祈っていたいたのに。

英一

死ぬまで祈ってあげます。

愛子

半分ぐらい美香ちゃんの幸せ祈ってあげて。

英一

美香ちゃんには願掛けしてるの。神様変えないとき、二人分もなんて大変でしよ。

愛子

神様のキヤパはもつと広いよ。

美香子

ほんと、もうやめてよねえ。（愛子に）

愛子

願掛け？

美香子

違うわよ。結婚だの離婚だの。そういうことはもつと考えてしなさいよ。

愛子

たいしたことにならなくて良かったと思ってよ。子どももないし、財産もないし、全然ラクなほうだよ？

美香子

まあそうだけど。

英一

で？で？どうなったの、結局。

愛子

電話で話したでしょ。

英一

ほんとに何にもないの。

愛子

ないない。ハンコついて紙出して終了。

英一

もつとさあ、ないの。グダグダのドロドロのドラマチックな展開。

愛子

ないよ。

英一

ッカー！あっさりしてる！信じられない！ねえ、美香ちゃん！

美香子

結婚するときだっであっさりしてたもん。

英一

そうだけどさあ。ハンコで何から何まで片付くんだもんねえ。うらやましい。

あたしなんてハンコあったって結婚できないのよ？

愛子

発言が重い。

英一

何トンぐらいあった？

愛子

うるさい、オカマ。

英一

ほんとにかわいい妹だこと。

愛子

どうもありがとう。

英一

いやあね、バツつくと凶太くなっちゃって。

愛子

当たり前でしょ。

英一

見て、美香ちゃんと僕のこの繊細さ。

美香子

一緒にしないでよ。

愛子

全然違うし。

英一

どう違うっていうの。

愛子

美香ちゃんはビッチじゃないもん。

英一

人のことまるでビッチみたいに言っ

愛子

だっ

英一

あたしの恋はもつと美しいわよ。もつとプラトニックよ。

愛子

前言った人とまだ付き合ってるの？

英一

どれ？

愛子

ジムでナンパされた人。

英一

ッカー！古い！すっごい古い！

美香子

ジムでナンパって、軽…。

愛子

しかももう別れてるんだけど。

英一

あのねえ、付き合ってる期間の問題じゃないの。精神の結びつきの話をして

いるの。出会いが軽かろうが重かろうが、精神的な結びつきを得られないと

ダメなのよ。バツついてるんだからそれくらいわかるでしょ。

まあ…。

英一

あー金持ちと結婚したい。

愛子

精神の結びつき、どこいったの。

英一

ご健在です。

美香子

英一、いいひといるの。

英一

そりゃねー。僕、男のひといないとダメなタイプだもん。

愛子

精神の結びつき、どこいったの。

英一

僕、モテんのかな？少なくとも二人よりは。

美香子

あ、そう。

英一

あ、彼氏にメール返さなきゃ。(携帯を取り出しメールを打つ)

美香子

あ、そう。

英一 ほんとは連れてきたかったんだけど、あまりにかっこよくてき、二人がびつくりするといけないから。

愛子 あ、そう。

英一 どうせ彼氏もいないんでしょ。二人とも。

美香子 ……

愛子 ……

英一 祈ってるから。ふたりの幸せ。

美香子 それはどうも…。

愛子 ありがとうございますー（棒読み）

愛子、テレビを見る。

愛子 ははは。（微妙な笑い）

美香子 愛子、顔。

愛子 （ハツとして顔を直す）…おにみたいな人はさ、こうならないよね。

美香子 そうね。

英一 なにー？（メールを打ちながら）

愛子 （英一を見ながら）美香ちゃん、男に逃げるような男にはならないでおこうね。

美香子 愛ちゃん、ちよつと違う。

愛子 …男に逃げるような女にはならないでおこうね。

美香子 そうね。

英一 なにー？（メールを打ちながら）

美香子 なんでもない…。

英一 愛ちゃん、いつまでいるの。（メールを打ちながら）

愛子 4日に帰る。

英一 あら、ゆつくりしたお正月。（メールを打ちながら）

愛子 お正月だもん。

美香子 英一、いつまで休み？

英一 7日まで。（メールを打ちながら）

愛子 わたしより長いじゃない。

英一 いいでしょう。（メールを打ちながら）

美香子 わたし3日まで。

英一 厳しい世の中ね。（メールを打ちながら）

美香子 見事な格差社会ですこと。

英一 でも僕なんて仕事持って帰ってきてますからね。（メールを打ちながら）

美香子 でも会社行かなくていいじゃない。

英一 でも僕なんて昨日まで働いてましたからね。（メールを打ちながら）

愛子 立派。

英一 そう言ってくれるの愛ちゃんだけ。（メールを打ちながら）

愛子　　そうでしょう。  
英一　　はー。おなかすいた。(メールを打ちながら)  
愛子　　ひとの話聞いているの？  
英一　　聞いているよ。(メールを打ちながら)  
美香子　　すぐ食べれるよ。  
英一　　はーい。…送信。  
愛子　　絶対、はなし聞いてなかったよね。  
英一　　聞いてたよ。どれ、父上様にごあいさつでもするか。  
愛子　　わ、まじめ。  
英一　　しないとブン殴られる気がすんのよ。  
愛子　　わ、トラウマ。  
英一　　そんなこと言ってるって枕元立たれるわよ。  
愛子　　ないない。  
英一　　いいわねえ、あんた自由で。

英一、仏壇へ。

英一　　あれ？アレ、ない。  
美香子　　なに。  
英一　　チーン。  
美香子　　ないわけではないでしょ。  
英一　　ないよ。  
愛子　　ないよ。  
英一　　ないよ。(股間に手を当てて)  
美香子・愛子　　ええ！？  
英一　　うっそー。オカマギャグ。  
愛子　　びっくりした…。  
美香子　　取りたいの？  
英一　　うちらは取らないの。  
愛子　　オカマにもいろいろあるのよ、美香ちゃん。  
美香子　　そうなのね。  
英一　　アレないってば。  
美香子　　なに。  
英一　　こっちのチンじゃなくて、こっちのチン。  
愛子　　ないわけないでしょ。  
英一　　ないよ。  
愛子　　ないよ。  
美香子　　なんで。  
愛子　　捨てた。  
美香子　　はあ？

愛子 嘘。隠した。  
美香子 なんて。  
愛子 辛気臭いもん。  
美香子 なにそれ。  
愛子 あの音が辛気臭い。  
美香子 辛気臭いって…。  
英一 チーンしないときあ、はじまんないでしょ。  
愛子 しなくていいよ。  
英一 愛ちゃん、チーンしてないの。  
愛子 してないよ。辛気臭いもん。  
英一 辛気臭いってさ。  
愛子 わたし、お正月したいの。チーンすると、お正月感薄れるから。  
英一 チーンぐらいいいじゃない。  
愛子 やだ。  
英一 いやーほんと末っ子。  
愛子 チーンなんてさせませんからね。

愛子、テレビを見る。  
英一、美香子、顔を見合わせる。  
英一、仕方なく、

英一 チーン。

と、口で言い手を合わせる。  
愛子、英一を見る。

愛子 口で言っているの？  
美香子 そんな心配するぐらいなら出しなさい。  
愛子 いやだ。

英一、一度手を下すが、

英一 テイーン。

と、口で言い手を合わせる。

愛子 テイーン？  
英一 あれってさ、チーンていうか、テイーン、じゃない？  
愛子 テイーン…？（考える）  
英一 どっちがそれっぽかった？

愛子

どっちでもいいし。

英一

愛ちゃん、つめたーい。

美香子

愛子。

愛子

なに。

美香子

あとでチーン返しなさいよ。

愛子

三が日終わったら。

美香子

愛子。

愛子

いいじゃん、チーンて言えば。

美香子

そういうことじゃないんだって。

愛子

お姉ちゃんだってほんとは命日なんかしたくないじゃない。無理してするこ

とないと思うよ。

美香子

…そういうことじゃないんだって。

愛子

じゃあなに。

美香子

…お正月だから。

愛子

お正月でしょ？お正月すればいいじゃない。

美香子

だから。お正月だから。

愛子

…

英一

(明るく) 美香ちゃん、ごはん食べよう。

美香子

うん。

英一

愛ちゃん、ほら、これおいしそーう。

美香子

愛子、テレビ消しなさいよ。

愛子

…

美香子

愛子、テレビ。

美香子

愛子。

テレビから、お笑い芸人の「あけましておめでどうございまーす！」の声。

愛子

あ。

テレビから、20年前の染之助・染太郎の「あけましておめでどうございまーす！」の声。

20年前のぼんやりとした記憶の断片。

美香子

愛子、テレビ消しなさい。

愛子

…

美香子

愛子。





愛子　そうそう。  
美香子　わたし、体かたいし。  
愛子　だからやるんじゃないの？  
美香子　やわらかくならないわけじゃないもん。  
英一　お料理教室とか行けばいいじゃない。  
美香子　だったらうちでお料理するし。  
英一　じゃ、お料理教室開いちゃいなさいよ。  
美香子　そんなにうまくないし。  
英一　ほんとに美香ちゃんはずまんないなあ。  
美香子　あんたね、きょうだいだからってなんでも言っていわけじゃないのよ。  
英一　事実でしょ？モテないわよ、そんなんじや。  
美香子　いいんです。  
英一　そうですかー。  
愛子　美香ちゃん、結婚はとていいよ。  
英一　ぜんっぜん説得力ないし。  
愛子　あるでしょ。経験者の言うことなんだから。  
英一　離婚してなきや信じるけど。  
愛子　ひどーい。  
英一　え、愛ちゃん、まだ結婚したいの？  
愛子　したいよ。  
英一　懲りないねえ。  
愛子　家族ほしいもん。わたし。  
英一　失敗してるのに。  
愛子　あのひとと家族を作るのは失敗したの。別の人ならうまくいくかもしれないじゃない。  
英一　子どもつくればよかったのに。  
愛子　そうなんだよねえ。  
英一　次はデキ婚にきなさいよ。  
愛子　違うの、そうじゃないの。ちゃんと順番踏んで、家族を作りたいの。  
英一　順番？  
愛子　そう、あるでしょ？順番が。  
英一　あんたバツついてんでしょ？  
愛子　そうだけど。  
英一　まだそんな夢みてんの？とりあえず子どもつくつちやえ！子ども！  
愛子　いやだよ。あの人たちみたいになりたくないもん。  
英一　そういうこと言うかな。  
愛子　あんな愛のない夫婦、わたしいやよ。  
英一　あつたんじやないの、なんかしらの愛は。  
愛子　絶対そんなものはない。  
英一　あんたの名前、愛子じゃない。

愛子

わたし3人目でしょ。3人目の愛なんてねえ、困ったあげくの愛だよ。スケール大きい名前つけとけばいい感じ丸出しじゃない。

英一

手厳しいねー、末っ子は。

愛子

わたし絶対あははなりたくないもん。ちゃんと家族つくりたいもん。

英一

家族。

愛子

そうだよ、家族。

英一

……

美香子

よくわかんない、家族とか。

英一

僕は、親だと思ってるけど。

愛子

英ちゃん、あの人の味方だもんね、昔から。

英一

味方っていうか……。母さん、弱いから。

愛子

……だから、それを言ってるんだよ。それが許せないって言ってるの。弱いからって何してもいいわけじゃないでしょ。

英一

仕方なかったんじゃないの。

愛子

英ちゃん、あの人に似てるとこあるもんね。すぐ男に逃げる。

英一

あんただって変わらないでしょ。

愛子

違うよ。わたしは違う。一緒にしないでよ。

英一

違うよ。

愛子

違うよ。わたしちゃんと結婚したもん。

英一

結婚したからなんだったの。

愛子

結婚できない英ちゃんとは違う。

英一

ちよつと……それはないんじゃない？

愛子

……自分で言ってたじゃない。ハンコあったって結婚できないって言ってたじゃない。

英一

自分で言うのと人が言うのとは違うでしょ。

愛子

なにそれ。

英一

言っ方がいいこととダメなことの区別つかないような奴が偉そうにすんな。あんた昔っからそう。何言ってもみんな許してくれると思ってるでしょ。そんなわけないっつもの。あたま！あたま使って喋んなよ。

愛子

……

英一

あつたまくる。

愛子

……

美香子

愛子。

愛子

そんなに怒ることないじゃない。

愛子、テレビをつける。

英一

ほら出た！困ったらすぐテレビに逃げる。

愛子

……

英一

あんた、謝んなさいよ。世界中のゲイに謝れ、バカ。

愛子

バカは余計じゃないの？

英一

うるさい、バカ。謝れ。

愛子

うるさい。

英一

どうせ紙にハンコついて出せば全部うまくいくとか思ってたんでしょ。んなわけあるかバカ。あんな紙にねえ、そんな効力ないつうの。そんなんで家族つくとか、夢見すぎだから。あんた絶対死ぬまで一人だね。でさ、親父みたいにマヌケな死に方するんだよ。あんたこそモチ喉に詰まらせて死んじまえ。美香ちゃん、こいつにお雑煮作ってあげて。

美香子

……

英一

あ。

美香子

ははは。(表情なく)

英一

あ、美香ちゃん。ごめん。

美香子

え、なんで謝るの。

英一

え？あ：美香ちゃん、あのね、

愛子

美香ちゃんのせいだと思ってるからでしょ。

英一

……

愛子

あいつが死んだの、美香ちゃんのせいだと思ってるんでしょ。

英一

そんなわけないだろ。美香ちゃん、あのね、

愛子

事故だよ。

英一

事故だよ。

愛子

美香ちゃんは悪くないよ。

英一

悪くないよ。

美香子

え？なにー？ちよつと、やめてよー。(笑って)

英一

なんでもない、なんでもない。

美香子

ほら、お正月だから。

愛子

お正月だから？

美香子

お正月だから……

英一

……

愛子

……お姉ちゃんは悪くないよ。(英一に)

英一

そうだよ。

愛子

お姉ちゃんは悪くないよ。

テレビから大爆笑の声。

英一

あ。

テレビから20年前の、大爆笑の声。

20年前のぼんやりとした記憶の断片。

愛子 お姉ちゃんが悪いのに。

美香子

愛子 ……  
お姉ちゃんが悪いのに。愛子、関係ないのに。なんでわたしテレビ見ちゃいけないの。

美香子

愛子 ……  
テレビ見たい！初詣だっていきたかったのに！

美香子 行けないの。

愛子 なんて。

美香子 お父さん死んだから。

愛子 ……

美香子 愛子。テレビ見てもいいよ。初詣も連れて行ってあげるね。おみくじひこうね。

愛子 ……

美香子 テレビ、見なさいよ。

愛子 ……

美香子 テレビ、見なさいよ。見ればいいでしょ！

英一 つて、姉は、怒っていた。

……

電話が鳴る。

美香子、電話をとる。

美香子

もしもし。……………。なに。

しばしの沈黙。

美香子

……………で？なに？……………なんで電話してきたの？……………あのさ、お金とか、無理だから。……………なんでわざわざ今日？……………電話してこないでって言ったよね？……………切るから。

電話を切る。

愛子

誰。

英一

お母さん…？

美香子

(うなづく)

愛子

なんで？

英一

よく電話くるの？

美香子

忘れたところにね。お金貸してって。

愛子

最悪。

英一

困ってんじゃないの？

美香子

じゃないと電話なんてこないでしょ。

愛子

お金貸してるの？

美香子

貸してないよ。何年も会ってないし。

愛子

よく電話してこれるね。

美香子

そういう人だもん。

愛子

そうだけど。そこまですとは思わなかった。

英一

具合、悪いんじゃない？

愛子

え？

英一

母さん。具合悪いんじゃない？

愛子

そうなの？(美香子に)

美香子

知らないよ。そんなこと言ってなかったもん。なんで？(英一に)

英一

いや、なんとなく。

美香子

：英一、連絡とってるの？

英一

いや。

美香子

ほんとに？

英一

：夏頃、一回だけ電話きた。

愛子

はあ？

英一

病氣したって。

愛子

そんなの、嘘だよ、嘘。

英一

それはわかんないけど。

美香子

あの人、あなたの携帯番号知ってるの？

英一

教えたから。

美香子

いつ。

英一

去年：いや、もっと前か。会ったから。

美香子

なんで。

英一

なんでって。どうしてんのかなと思って。

愛子

なんでそんなことするの。

英一

たまには心配になるでしょう。一応、母親なんだから。

美香子

お金、貸したりしてないでしょうね。

英一

僕には言わなかったもん。お金貸してくれなんて。ただ病氣したって。元気

美香子

かって電話きただけだから。

英一

それだけ？

美香子

美香ちゃんと愛子、元気かって。

美香子

わざとらしい。

英一

でも心配してたよ。

美香子

そりゃあんたにはそういうふうに言うでしょう。わたしには電話してきたってそんなこと言わないわよ。

愛子

英ちゃんはやさしくしてくれるから甘えてるんだよ。そのうちお金貸してって言ってくるよ。

英一

そうかな。

愛子

そうだよ、そうに決まってる。

英一

美香ちゃん、ずっと会ってないでしょ？ちよつとぐらい会ってみたら？

美香子

会わないよ。

英一

(愛子を見る)

愛子

会いたくない。

英一

……

美香子

会いたいなら、あんただけ会えばいい。わたしは絶対に会わない。

英一

……

美香子

あんたはさ、息子だから。わたしたちとは違うのよ。

英一

息子だけどさ。

美香子

……

英一

息子だけど、息子らしいことはできないから。

美香子

……

英一

……結婚するとか、孫の顔見せるとか、僕はできないから。

美香子

だから？

英一

だから、って。

美香子

だから、大事にしようって？そういうことでしょ？馬鹿みたい。

英一

馬鹿みたいって、なにそれ。

美香子

なんでそんな気遣うの。

英一

気遣ってるとかじゃない。僕は、できないから。僕は、血をつなげない。

美香子

……

英一

一緒にじゃないよ。

美香子

一緒に。

しばしの沈黙。

美香子

あのひと、知ってるの？あんたのこと。

英一

僕が、ゲイだってこと？……言わないよ。言ったからって。

美香子

……なんでわたしたちには言ったの。

英一

……

美香子

なんでわたしたちには言ったの。言えば理解してくれると思ったの。

英一

……僕は、男だから。

美香子

……

英一

父さんと同じ、男だから。僕が女のひとに性的な興味がないってことは、美

美香子

香ちゃんには大事なことだと思った。  
……

英一

僕は、きょうだいだから。きょうだいでしたかったから。

美香子

きょうだいだよ。

英一

ほんとにそう思ってる？

美香子

きょうだいだよ。きょうだいだけど。

英一

……

美香子

きょうだいだからって……

英一

わかってる。

美香子

わかってないよ。

英一

わかってる。わかってるよ。僕は、美香ちゃんのことわかってるつもりなんだよ。

美香子

わかってないよ。

英一

そうだよね……

英一、携帯電話をいじりだす。

英一

僕だって厭だよ。わかってる、とか言われたら。

美香子

じゃあそんなこと言わないで。

英一

わかるわけない。

美香子

当たり前じゃない。

英一

……僕がさあ、女の子に生まれてたら？美香ちゃんのこともっとわかったかな。

美香子

なんの事言ってるの。

英一

なんでもない、なんでもないよ。

英一、電話をかける。

愛子

おにい、どこかけてんの？

英一

(少しすねて) いいでしょ、どこでも。

愛子

ちよっと、

英一

(弱気に) あ、もしもし？ごめん、僕。……うん。……ちよっと、声聞きたくな  
って。

部屋の隅へ移動し、話す。

愛子

え？

美香子

……

英一

ちよっとね……うん……。たいしたことじゃないんだけど……帰ったらまた電話する……。ごめんね……。ウン。ちよっと元気になった。うん。……うん。ありがとう。はーい。はーい。またねー。

英一、電話を切る。

英一 よし。

美香子 ヨシ？

英一 すいませーん。失礼しました。

美香子 え？なに？

英一 なに。

美香子 今の電話。

英一 なにって、彼氏だけど。

愛子 信じらんない。

英一 何がよ。

愛子 そのタイミングが！

英一 心折れる直前よ？ナイスタイミングじゃない。

美香子 それはあんたの話でしょ。目の前にいるんだけど、わたしたち。

英一 だって、折れそうだったんだもん。おかげで元気になりました。

愛子 耐えろよ。

英一 あんたみたいに凶太くないの、繊細なの。

愛子 絶対こんなひとは分かり合えないよ、美香ちゃん。

美香子 あ。

愛子 なに。

美香子 やだ。え、ちよつと、やだあ。

英一 なに。

美香子 ……あんたさあ、小松くんのこと好きだったでしょ。

英一 ……ちよ！なに！いきなり！

美香子 やっぱり。

英一 ちよ、なんで知ってるのー！

愛子 小松くんて、あの、メガネの小松くん？ゲームしに来てた小松くん？

美香子 そう！あの、ほら、スツとした感じの。

愛子 はいはい。覚えてる。ちよつとかっこよかったよね。

美香子 そう？

英一 かっこよかった。か・っ・こ・よ・か・っ・た！（ちからのこもった言い方）

愛子 ちからこもってる。

英一 だってえ。初恋、的な？

愛子 まじか！

英一 ちよつと、やめてよー。なんなのー。あーあつつい！

愛子 わたし全然しらなかった。

美香子 わたしだって知らなかったよー。いま気づいた。

英一 なんで。

美香子 あんた、昔から同じことしてるもん。

英一

…え？

美香子

あの日さあ、あんた小松君に電話したじゃない。

英一

ええ？

美香子

覚えてないの？出かけていい？とか聞いてきてさ、お母さんキレるからダメって言ったら小松君に電話し出してさ。

英一

あー！やめてー！

愛子

元旦でしょ？

美香子

元旦から家電に電話するんだよ？

愛子

めいわくー！

美香子

電話きつて、よし、つて。

愛子

なんだそれ！

美香子

きつと心折れそうだったのよ。

英一

ナイーブ！

愛子

でもさ、いくら好きだからってさ、お正月から家電！

美香子

覚えてるでしょ？（英一に）

英一

覚えてます。

愛子

成長してない。

英一

かわいいままだつてことよ。

美香子

あ。

英一

今度はなに！

美香子

チョコ。

英一

思い出しちゃった？

愛子

なにそれ。

美香子

バレンタインにさ、わたしがチョコレート作ってたら僕も作りたいんだけど  
つて。

愛子

小松くんにあげたの？（英一に）

英一

今でいう友チョコ。

愛子

違うでしょ。

英一

の、ふりをした本命！ヤン！そのせつはありがと！美香ちゃん！

美香子

どういたしまして。

愛子

英ちゃんやるな。

英一

でもさ、あの頃はまだよくわかってなかったのね。だから、姉ちゃんが作っ

美香子

たんだよね。つて言つて渡したのー！

美香子

それ事実でしょ。わたしが作ったでしょ。

英一

そうだけどー！

愛子

自分で作ったんじゃないの？

英一

ちよっと、もらった？みたいな。

愛子

自分で作りなさいよ。

英一

だつておいしそうだったんだもん。ねえ、あれ、誰にあげたの。（美香子に）  
え。

美香子

英一 チョコ。めっちゃ気合い入ってたじゃない。

美香子 お父さん。

英一 え？

美香子 お父さんに、あげたよ。

英一 ……なーんだー。つまんないの。

美香子 なによ。

愛子 ほんとは別のひとにもあげたんじゃないのー？

美香子 あげてない、あげてない。

英一 つまんないのー。

20年前のはつきりとした記憶の断片。

美香子 で、

美香子 ありがとう美香子、って、わたしは、言われた。

.....

英一 こまつちゃん、元気かな。

愛子 英ちゃん、初恋から男に逃げてんのね。

英一 男に逃げるなんて言い方やめて！恋に逃げてるって言うって！

愛子 おんなじ！

愛子 よくさあ、そんなときに電話しようとか思うよね。

英一 愛ちゃんだってテレビ見たいってぐずってたよ？

愛子 だからなによ。

英一 辛いことがある。あんたはテレビに逃げる。僕は恋に逃げる。一緒。

愛子 ちがうよ。

英一 一緒だよ。逃げ場求めてるんだもん。

愛子 英ちゃんなんて今もじゃない。

英一 自己防衛本能というのよ。

愛子 男のひといないとなんにもできないんだから。

英一 そんなことないわよ、失礼しちゃう。

愛子 もういい年なんだから、やめなよねー。

英一 愛ちゃん。なんでもひとりでできるようになるっていうのはね、間違いよ。

愛子 はあ？

英一 なんでもひとりできちゃったら、誰もいらなくなるじゃない。

愛子 そんなことないよ。

英一 できないことあるぐらいのほうがかわいいじゃない。  
愛子 だから英ちゃんダメなのよ。ちゃんと自立して、相手も自立してて、それで

一緒にいるほうがいいじゃない。

英一 そんな女はねえ、かわいくないのよ。あっちにしてみたら頼られがない  
愛子 じゃない。男のほうが繊細なんだから。

そんな気使うのへんよ。

英一 女のほうがたくましいんだから、そのうち、一人が良くなっちゃうのよ。美  
香ちゃんみたいだね、なんでもひとりできちやうと、ひとりのほうがいい  
とか思うのよ。

そーう？

美香子 そうでしょ。

なんでもひとりできるに越したことないよねえ。

愛子 そうよねえ。

もー。ほんと可愛くない。

愛子 やっぱね、足し算よ、足し算。

足し算？

愛子 人がふたりいたら、足し算じゃないとダメでしょう。穴埋めしてどうすんの。  
穴埋めしてるうちに、こっちが引き算されてくじゃない。もう何算かわか  
らないでしょ。

愛ちゃん、足し算じゃないわ。やっぱね、掛け算よ。

英一

掛け算。

愛子 ふたりいたら、掛け算よ。足し算はさあ、もたなくなるわよ。てか、穴埋め  
英一 ならまだいいわよ。割り算の場合もあるんだから。

愛子

割り算。

英一 方程式なんて作っちゃったらもうダメよ。かつこの中から計算しないとダメ  
なのよ。あれ、むずかしいでしょ。わけわかんなくなるでしょ。

美香子

あんたたちがわけわかんない。

英一 やーね、美香ちゃん。愛の方・程・式！

美香子 方程式はダメなんですよ。

(愛子に)次はね、掛け算できるひとと一緒にになりなさいよ。掛け算すごい  
のよー。増えてくばっかりなんだから。どっちかがちよつとぐらい足りてな  
くたって増えるのよ？

愛子

英ちゃん、甘いわね。

英一

なによ。

愛子

掛け算なんてね、ゼロかけたらゼロになるじゃない！

英一

キヤー！

愛子

1かける1だって1じゃない！

英一

ふ、増えない！

愛子

足し算はゼロ足しても残る。1足しても増える。足し算、優秀。

英一

2以上の男と付き合え！

愛子  
美香子

それはわかんないものー。  
もうやめて。足し算の話やめて。  
ねえ、これ前にも話したことなかった？

愛子  
英一

そうだっけ？

美香子  
英一

愛ちゃん、ずーつと言われてそう。  
この先もずーつと言ってやる。

愛子  
美香子

やだあ。  
おんなじことしてたらずーつと言われるんだからね。

愛子  
英一

それは英ちゃん。  
愛ちゃんでしょ。

愛子  
英一

英ちゃんの彼氏、掛け算できんの。  
九九できないみたいじゃない、それ。

愛子  
英一

九九できないの？  
できます。

美香子  
英一

もうやめて。掛け算の話やめて。  
マイナスにならなきゃいいってこと。ダメな男でも、ふたりでプラスになる

愛子  
英一

ならいいじゃないの。  
べつにダメなひとが好きじゃなわけじゃないもん。

愛子  
英一

ぜーつたいうそ！  
違いますー。

英一

自覚ないのがまずダメ。あんた、バツイチでしょ。家族がほしいのーとか言  
つてさ、違うの。こういうタイプはそうじゃないのよ。

美香子  
英一

どういうこと。  
絶対的に愛されたいだけなのよ。ただのわがまま。末っ子気質なだけ。その  
うち不倫とかしちゃうんだからね。

美香子

えー！  
しちゃうしちゃう。ぜーつたいしちゃう。

英一  
美香子

なんでなんで。  
愛されたいから。

英一  
美香子

不倫なんて2番目の女じゃない。  
不倫なんてしちゃう男はねえ、いいことだけぺらぺら言うのよ？好

美香子

きだ愛してる妻とは別れてきみと一緒にいる待っていてくれ。このとき、女  
の眼には男しか見えてないわ。するとなんということでしょう。女の中には、  
わたしこのひとにすっごく愛されてる感、だけが残るのよ。

美香子

ええ？

英一  
美香子

それだけでごはん食べれるんだから、あいっら。うっつりの国の住人だから。  
うっつりの国。

英一  
美香子

(うっつりと)「わたし愛されてる！」って思えりゃなんでもいいのよ。うっ  
つりの国に住んでいたい。そのためには不倫がピタリなの。男にしたら、  
ジュテームジュテーム言っていればいいんだから不倫はラクチンなのよ。

美香子

需要と供給。

英一

正解。世の中よくできてるわ、ほんと。

美香子

大奥だってもうちよつと熾烈な争いがあつたりするのにねえ。

英一

あれは権力が絡むから。子ども産んだほうが勝ちでしょ？相手が金持ちだつたら同じよ？権力争いじゃなくて遺産争いになるだけ。

美香子

遺産。

英一

こうなつちやつたら掛け算も足し算もないわよ？なに計算してんだかわかんなくなつちやうでしょ。

美香子

掛け算の話やめて。

英一

と・に・か・く、不毛！うつとりの国でしか生きていけないなんて、マリーアントワネットかつつうの！

美香子

パンのひとつ。

英一

どつちかっていうと、おかしのひとつ。

美香子

現実には妻も子もいたりするんでしよう？

英一

そうよ、相手の妻はうつとりの国になんて住んでないわよ？子どもなんていたら血を見るわ。

美香子

こわーい。

英一

怖いよ、ほんと。美香ちゃん、不倫はだめよ。

美香子

わたしには無理無理。英ちゃんこそ、不倫はだめよ。

英一

あたし、リアリストだから。

美香子

愛ちゃん、不倫はだめよ。

愛子

……。

美香子

……。

愛子

……。

英一

愛子、あんた。

愛子

違う、違います。なんでもないです。

英一

ちよつとー！

愛子

してないしてない。

英一

嘘つくんじゃない。

愛子

ちよつと…テレビつけていい？

英一

ほらテレビに逃げた！

愛子

……。

英一

美香ちゃん！この子！不倫してまーす！

愛子

いやああ…。

英一

あんた離婚したばっかじゃないの！

愛子

関係ないでしょ！

美香子

まさかそれが理由で離婚したんじゃないでしょうね？

愛子

違います。関係ないです。全然関係ないです。

英一

ほんとにー？

愛子

ほんと！それはほんと！

英一　じゃあなに。

愛子　たまたま：

英一　たまたま結婚してたってか。うわー！お決まりすぎて反吐が出る！

愛子　だって！たまたま妻と子がいたんだもん！

英一　妻と子はたまたまいたりしませーん。

愛子　だって！

美香子　お相手の方って：

英一　なに聞いてんの美香ちゃん。

美香子　だって気になるでしょ。

英一　同僚、上司、取引先、その他、さあどーれだ！

美香子　2番！

英一　じゃああたし3番！正解は？

愛子　…：2番。

美香子　やった！

英一　うわあ、はずした。

愛子　あー！もうっらい！

美香子　っらいならやめなさい。

英一　そうよ、やめちまえ。

美香子　血を見るのよ。

英一　そうよ。

愛子　ちがうよ！

美香子　何が。

愛子　会社休みなんだもん！

美香子　え。

愛子　お正月休みだから会えないんだもん！ほんと休みとかいらんし！メールしても返ってこないし！

美香子　それメールしちゃダメなんじゃないの？

英一　ダメだよね。

愛子　だってさ、30日から奥さんの実家行くなって言ってたけど、31日の朝はまだ家にいたし。

英一　え？

愛子　嘘ついたんだよ？ひどいでしょ。電話かけたけど出ないし。マジ、なんなの。

英一　家行っただの？

愛子　行っただよ。

英一　それ、ちよっとヤバイよ。

愛子　え、終わる？しんちゃん、別れたいのかな？

美香子　しんちゃん…

英一　あんた、それストーカーっていうの、知ってる？

愛子　は？

英一　ストーカー。

愛子 誰が。

英一 愛子。

愛子 わたし？

英一 うん。

愛子 そんなことないよ。

英一 いやいや！ストーカーです！ストーカーと呼ばれます！

愛子 …ええ？

美香子 愛子、ちよっと落ち着いたら。

愛子 わたしは落ち着いてるよ。

美香子 バカになってるよ。

愛子 なってません！

英一 出て来い！うつとりの国から出て来い！

愛子 そんなところには住んでません！

英一 あーほんとヤダ！

愛子 わたしだってイヤです！

英一 何が家族が欲しいのわたし、だ。バカ。

愛子 家族ほしいもん！

英一 ほんとあんたはあの人たちの子どもだわ。

愛子 はあ？

英一 美香ちゃん、ビールもらっていい？

美香子 いいよ。

英一 美香ちゃんは。

美香子 呑もうかな…。

愛子 わたしも。

英一 あんたは呑んじゃだめ！

愛子 なんで。

英一 バカだから。

愛子 オカマに言われたくないんだけど！

英一 違いますー。オカマじゃないですー。

愛子 うるさいオカマ。

英一 侮蔑よ、侮蔑。きょうだいだからって許さないからね！

英一、台所へいく。

美香子 愛ちゃん。

愛子 なに。

美香子 まさかその人と結婚したいとか言わないよね？

愛子 え、したいよ。

美香子 あ、そう…。

愛子 付き合う人とは必ず結婚したいと思ってるもん。

美香子

あ、そう…。

愛子

だからさ、美香ちゃんはそう思わないかもしれないけど、わたしちやんと考えて結婚したんだからね。離婚したけど。

美香子

わたし、前のひとよく知らないから。

愛子

1、2回しか会ったことないもんね

美香子

うん。

愛子

いい人だったよー。でも、わたしが思う家族はあの人とは作れなかっただけ。

美香子

…愛子のつくりたい家族ってどんなの。

愛子

きちんとした家族。

美香子

…

愛子

うち、ちがったから。

美香子

あ。

20年前のはっきりとした記憶の断片。

美香子

いいんじゃないですか、お葬式とか、ちゃんとやんなきゃいけないのかもしれないけど。べつに、親戚とかいないんだし。よくわかんないけど。……。そんなこと、わたしに言われてもわかんないし。お母さんが決めればいいんじゃないですか。……。ははは。

美香子

って、わたしは、わらった。

……

英一、戻ってくる。

英一

美香ちゃん！あれなに！？

美香子

え？

英一

冷蔵庫！いっぱいすぎてビール探せないんだけど。

美香子

あ。

英一

あんなにみっちみちにしてどうすんの。いくらなんでもあんなに食べれないでしょ。

美香子

あ…。

愛子

そんなに？

英一  
美香子

すごいよ。納豆落ちてきたもん。どうすんの、あれ。  
うん。

美香子、立ち上がり台所へ行く。

英一  
愛子  
お節。  
だって自分で冷蔵庫行かなくても次々出てくるんだもん。  
（愛子に）あんた、冷蔵庫見てないの？

英一  
愛子  
え？

英一  
愛子  
いや。

英一  
愛子  
……

英一  
愛子  
英ちゃん。

英一  
愛子  
ん？

英一  
愛子  
お父さんにさあ、

英一  
愛子  
うん。

英一  
愛子  
英ちゃんも殴られたりしたでしょ。

英一  
愛子  
うん。

英一  
愛子  
嫌いだったじゃない。あの人のこと。

英一  
愛子  
うん。

英一  
愛子  
死んだときにさあ、もう殴られないって思ってたさあ、わたし嬉しかったんだ  
よね。

英一  
愛子  
うん。

英一  
愛子  
すごいダメだと思っただけど。

英一  
愛子  
うん。

英一  
愛子  
美香ちゃんさあ、

英一  
愛子  
……

英一  
愛子  
もっと嬉しかったよね。きっと。

英一  
愛子  
……

英一  
愛子  
そう思わなかった？

英一  
愛子  
なんでいまさらそんなこと聞くの。

英一  
愛子  
事故でしょ。

英一  
愛子  
事故だよ。

英一  
愛子  
そうだよね。

英一  
愛子  
美香ちゃんは何んにも悪くないんだよ。

英一  
愛子  
悪くてもいいよ。わたしたち、嬉しかったもん。

英一  
愛子  
……

英一  
愛子  
嬉しかったもん。

美香子、戻ってくる。

美香子  
英一

ビール、あった。  
ありがとう。

英一、ビールを受け取る。

愛子

ねえ、美香ちゃん。

美香子

なーに。

愛子

お正月、しようね。

美香子

お正月してるじゃない。

愛子

お雑煮、作って。

美香子

…無理無理。

愛子

作ってよ。で、ちゃんとお正月しよう。もういいじゃない。

美香子

えー。

愛子

美香ちゃん。

美香子

お正月してるじゃない。ちゃんとお正月してるじゃない。なに？

愛子

20年経ったよ。

美香子

そうだね。

愛子

美香ちゃん悪くないんだから、いいんだよ。

美香子

…。

愛子

美香ちゃんが殺したの？

美香子

…え？

英一

愛子。

愛子

べつにそれでもいいの、わたし。わたしだって英ちゃんだって、あの人がなくなっただけじゃなかったんだから。ほんとは思っちゃいけないのかもしれないけど、嬉しかったんだから。美香ちゃんがあの人になされたこと考えたら、

英一

愛子！

愛子

美香ちゃん、あんなことされてたんだもん、死んで嬉しかったでしょ？

英一

あんた、なんでそういうこと言えるの。

愛子

なんでって、

美香子

愛子はさあ、ほんとはさあ、わたしが殺したと思ってたんだ。

愛子

わたしは、美香ちゃんがずっと悩んでるんじゃないかと思って、

美香子

事故だよ？わたしがお雑煮作っただけ。それだけだよ。

愛子

…

美香子

なんでー？わたし、お父さんのこと好きだったじゃない。

愛子

…

美香子

チョコ。

英一

…

美香子

わたし、チョコレート、お父さんにあげたもん。ねえ？

英一

うん。

美香子

ははは。作ってたらさ、お父さんに見つかつてさ。お父さんにあげるなんて言っ  
てないのに、ありがとう美香子って言うんだよ。だから、お父さんにあ  
げたもん。わたし、お父さんのこと好きだからチョコあげたもん。いやだつ  
たけど。いやだつたけど。

英一

……

美香子

お父さんのこと好きだからね、チョコあげたよ。

英一

……

美香子

そんなことするわけないじゃない。

愛子

美香ちゃん。

美香子

なあに。

愛子

もういいよ。

美香子

わたし、料理作れないさ。

愛子

……

美香子

全然作れないさ。年末になるとさあ、全然手が動かないさ。結局なんにも作  
れないの。冷蔵庫の中、全然減らないの。わたし、なんにもしてないのに。  
なんにも作れない。ほんと参っちゃう。カツコ悪いから、栗きんとん作つた  
とか言っちゃつた。ごめんね、あれ嘘ね。

愛子

……

美香子

手震えて作れないんだよね。お雑煮なんて絶対作れないよ、愛ちゃん。ごめ  
んね。お正月きたら作るからね。

愛子

……

美香子

ははは。いつからだ？あー、今年も変わらないんだなあって思ったなあ。ず  
つとこうなのかあつて思ったからさ、朝起きてお願いしたもん。元日から。  
そしたらすぐ願い叶つたさ。すごくない？

英一

美香ちゃん。

美香子

ほんとに死んじゃつた。ほんとに死んじゃつた。あはは！ほんとに死んじゃ  
つた！

英一

……

美香子

うわー。死んじゃつたよ。

英一

美香ちゃん。

美香子

あんな死に方、わたしがさせるわけないじゃない。事故だよ。だって、わた  
しお父さんのこと好きだもん。

英一

……

美香子

あー、おかしい。

しばしの沈黙。

愛子

テレビ見たい。

美香子

ダメ。

愛子

なんで。

美香子 あんただけ逃げるのとか無しね。

愛子 ……

美香子 絶対、ダメね。

愛子 ……

英一 美香ちゃん。

美香子 ……

英一 僕、お餅買ってくるから！

美香子 え？

英一 お餅買ってくるからさ、だからさ、待ってて。(玄関へ向かおうとする)

美香子 (止めて)ちよつと、何言ってるの。

英一 作りな、作れるよ、美香ちゃんは、作れるって。お雑煮作りなっ

美香子 無理だっって言ってるでしょ。

英一 いいから、作れるって。作ってみ。お餅買ってくるからさ、ね。

美香子 手、震えるんだっつうの！

英一 ダメだったら、僕、作るからさ。

美香子 ダメだっって！ダメなんだっって！

英一 じゃ、最初っから僕が作るからさ。

美香子 お雑煮作ったらお正月来ちゃうじゃない。

英一 何いってるの、美香ちゃん。

美香子 お正月きちゃうじゃない。年、かわっちゃうじゃない。ダメなんだっ

英一 たし、まだなんにも終ってないんだっ

美香子 終わってないんだっ

英一 美香ちゃん、わかんないよ。

美香子 わかるわけじゃない、あんたに。終わってないんだっ

愛子 ……

美香子 ……

愛子 美香ちゃんは、ずっとそうしてるつもりなの。

美香子 ……

愛子 美香ちゃんはずっとそのままだよ。ずっとお正月こないよ。

美香子 ……

愛子 ……それは困るよ。

美香子 ……それは困るよ。

愛子 ……それは困るよ。

美香子 ……それは困るよ。

愛子 ……

美香子 ……あーあ。いやんなっちゃう。

美香子 お正月なのに。

美香子  
お正月だからか。

美香子  
お正月かあ。

しばしの沈黙。

美香子  
でも、人を殺すっていうのは、いやな気持ちね。

しばしの沈黙。

美香子  
あけましておめでとうございます。  
今年も、よろしく願います。

英一  
……

愛子  
……

美香子  
……

英一  
……あけまして、おめでとうございます。

愛子  
……おめでとうございます。

美香子  
……おめでとうございます。

しばしの沈黙。

3人、誰からともなく食卓へつく。

英一  
結婚しようと思ってる。

美香子  
……え？

愛子  
何言ってるの？

英一  
話しておかなきやと思ってたから。……結婚しようと思ってる。

愛子  
誰と。

英一  
彼氏と。

愛子  
……できるの？

英一  
できないから、養子縁組、しようと。

美香子  
……

愛子  
え、よくわかんない。

英一  
日本じゃ結婚できないから。

愛子  
だから？

英一  
だから、同じようなことしようとする、そうなっちゃうっていう。

愛子  
え、結婚なの？養子縁組なの？

英一  
養子縁組。

愛子  
それって、

英一  
僕が、むこうの戸籍に入る。書類上は、彼の子供になるんだけど。

愛子

はあ？

英一

書類上はね。

愛子

え、英ちゃん、それでいいの。

英一

うん、考えたから。

愛子

だって、

英一

同じ名前を名乗れる。

愛子

……

英一

書類上は、この家から出ていくことになる。

愛子

へんだよ。

英一

なにが。

愛子

へんですよ。ダメですよ。そんなの、妥協だよ。結婚しなきゃだめですよ。

英一

だから、できないから。

愛子

できないからって。そんなの、違うよ。

英一

でも、家族にはなれる。

愛子

……

英一

家族になりたいんだよ。

美香子

……

英一

家族だと認めてもらいたい。

美香子

……

愛子

家族なんてねえ、ハンコだけでどうにかなるもんじゃないんだからね。わか

英一

わかってるよ。

愛子

ハンコで片付いたら誰も苦労しないんだからね。

英一

わかってるって。

美香子

愛ちゃん、英一に言われたこととおんなじこと言ってるよ。

愛子

うそ。

美香子

ほんと。

英一

ほら、精神的には似たような紙なんだって。

愛子

でも違うでしょ。

英一

そうだけど。

美香子

決めたんですよ。

英一

決めたよ。

美香子

いいじゃない。ねえ、愛子。

愛子

ちゃんと紹介しなさいよね。

英一

今度、連れてくる。

愛子

へんなやつはダメだからね。

英一

へんじゃないです、かっこいいですー。

愛子

かっこいいだけじゃダメだからね。

英一

あんた、ほんと自分のことは棚にあげてよく言うわ。

愛子

わたしのことはいいんですー。

美香子

愛ちゃん、また結婚するの。

愛子

するよ。家族ほしいもん。

英一

無理でしょ。

愛子

ひどーい。

英一

美香ちゃん犬でも飼えば。

美香子

犬？

英一

おとなしめの犬とか、いいんじゃない。年寄りが抱いてるようなやつ。

美香子

年寄り扱いしないでください。

英一

ああいうの、飼いやすいのよ？

愛子

犬いいよ。犬。赤ちゃんみたいで。

美香子

えー。赤ちゃんは大変だもん。

英一

じゃ、うちで飼おうつと。

愛子

犬？

英一

そ、ふたりで育てるの。

愛子

英ちゃんさ、やっぱナメてるでしょ、結婚。

英一

はあ？

愛子

ナメてる。

英一

なに、この小姑。

愛子

あのね、英ちゃん。そんなに夢みてたらダメよ？

英一

そんなの愛ちゃんに言われたくないし。

愛子

先輩のいうことは聞くべきよ？

英一

あたしのほうがあんたより長く生きてんのよ？

愛子

ちよつとだけでしょ、

英一、箸を置く。それから立ち上がり、

英一

じゃ、いってきまーす。

愛子

どこ行くの。

英一

お餅買いに。

愛子

……

英一

お雑煮、するよ。

美香子

誰が。

英一

美香ちゃん。

美香子

だから、手震えるんだつつうの。

英一

美香ちゃん、うける。

美香子

無理。

英一

だから、僕が作るから。

美香子

……

英一

美香ちゃんができないこと、僕がやってもいいじゃない。

美香子

なにそれ。

英一  
愛子  
英一  
美香子  
英一  
美香子  
愛子  
英一  
愛子  
英一  
愛子

別に。  
親孝行のつもりだよ。  
そんなんじゃないわよ。  
親じゃないし。  
だから、お雑煮、僕がつくるから。  
……  
作るからさあ、食べなよ。  
……  
愛子は。  
食べる。  
お正月だからね。  
お正月だから。

英一、出ていく。

美香子  
愛子

……  
……

英一、リュックサックをしょって戻ってくる。

愛子  
英一  
愛子  
英一  
愛子  
英一  
愛子  
英一  
愛子  
英一  
愛子  
英一  
愛子  
美香子

どんだけ買う気なの！  
じゅっキロ？  
いらないし！  
だってー、何年食べてないと思ってんの？一人一年3個としても、かける2  
0で60個よ？  
遡らなくていいし！  
せつかくなんだからやんなきゃだめよ！  
意味わかんないし。  
ほんとあんた算数苦手ね。  
そうじゃなくて。  
だいじようぶ！たべれる！  
むりー。  
行ってきまーす。  
はいはい。  
行ってきます。(美香子に)  
……

英一、出ていく。

愛子

……

美香子

……

愛子

出汁、とろろかな。

美香子

……

愛子

ね。(美香子に)

美香子

……

愛子、台所へ。

美香子

……

美香子、テレビをつける。

テレビから、「あけましておめでと〜ございませ〜す」の声。

美香子

あけましておめでと〜ございませ〜す。